

広報

かじき

2006
平成18年

2月号
616号

特集

●公表します
加治木町新行政改革大綱

2月～3月の暮らしのカレンダーが入っています

人口・世帯の動き 平成18年1月1日現在

●総人口 22,851人 (-21)

男 10,534人 (-9) 女 12,317人 (-12)

●世帯数 9,057 (-23)

出生 12人 死亡 25人 転入 64人 転出 72人

※ () 内は前月との比較

あなたです 火のあるくらしの 見はり役

3/1~7

春季全国火災予防運動

消防出初式(1月5日)で力強く宣誓する幼年消防クラブ

公表します

加治木町新行政改革大綱

(平成18年度～平成23年度)

我が国はもとより、加治木町を取り巻く社会経済情勢は依然として厳しい状況にあります。

平成十五年四月に加治木・始良・蒲生の三町合併を目指す始良西部合併協議会が設置され、錦江市誕生に向けて着々と準備を進めてまいりましたが、最終的には合併特例法が適用される合併は実現しませんでした。

合併新法による市町村合併が実現するまで、加治木町は当面単独の道を進まなければなりません。それまでの間、本格的な行政改革を断行し、行財政基盤を立て直すべく「加治木町新行政改革大綱」が昨年の十二月議会において発表されました。

議会の議決を要する項目については平成十八年の三月議会に提案されますが、ここにその内容を公表します。

※詳細については加治木町ホームページに掲載してあります。

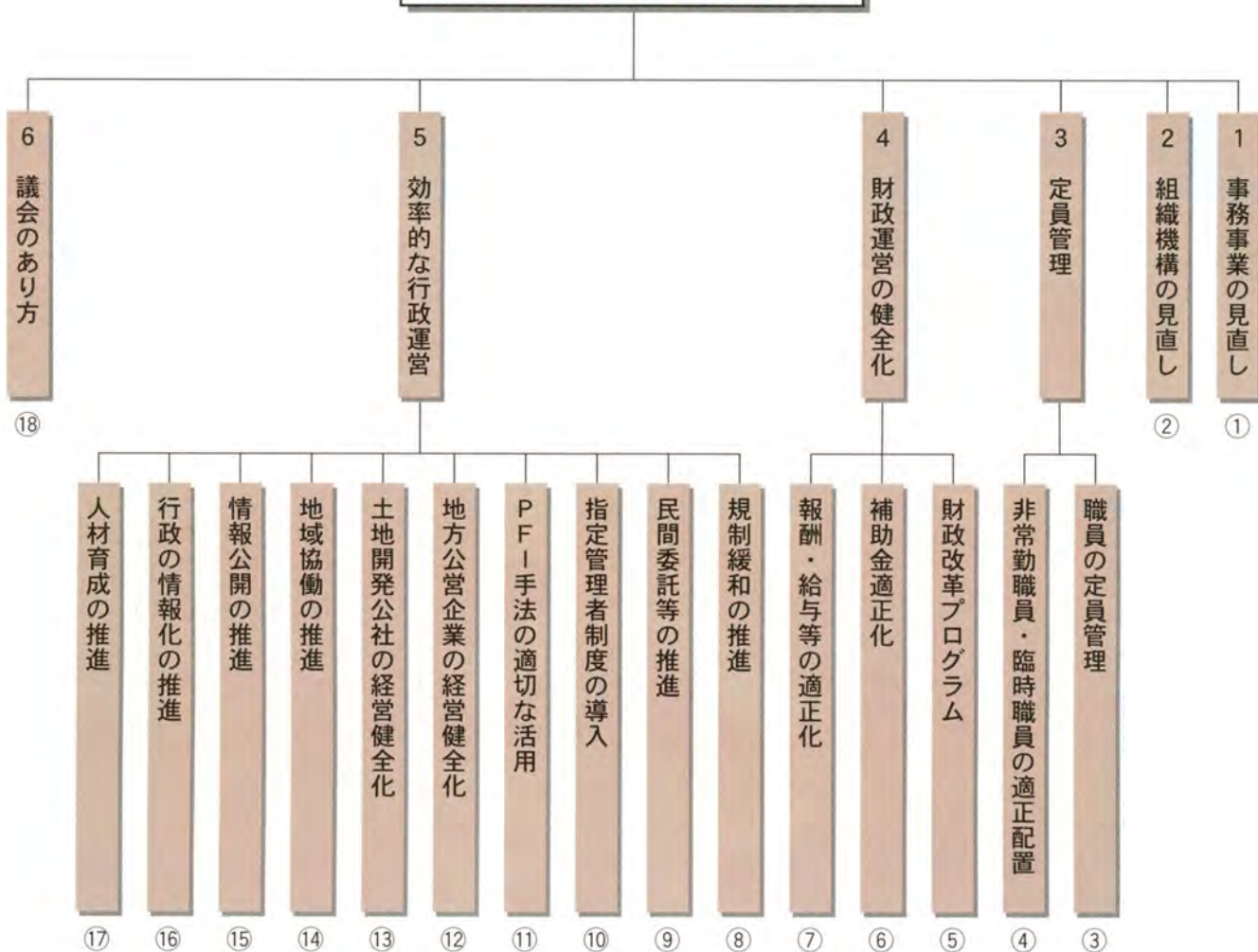
<http://www.synapse.ne.jp/kajiki/>

計画期間と大綱の骨組み

平成十七年度を基準として、平成二十三年（平成二十一年度）までを最重点期間）を目標とした六つの体系から構成され、それを具体的に実施するための十八項目からなる集中改革プランを策定しました。（図－１）

図－１

加治木町新行政改革大綱



1 事務・事業の見直し

すべての事務・事業を総合振興計画の体系に基づいて区分し行政評価を導入しながら、①廃止・終了②休止・凍結③縮小・改善④新規・拡充で区分し、具体的な内容を表示して方向性を明確にします。また、広く住民の意見を収集するため、住民説明会やホームページでの意見聴取、行政改革推進委員会など可能な限り広く意見聴取し反映させていきます。

《具体的な取組》

- ①行政評価システムの導入
- ②総合振興計画・予算事業・文書管理システム・財務会計のリンク

2 組織機構の見直し

《具体的な取組》

- ①行政組織の統合整理Ⅱ（行政改革、行政評価担当部署の強化、少子高齢化・権限移譲・情報公開等に対応する法制担当部署の強化、町税や使用料徴収体制の強化、町有財産処分や企業誘致担当部署の強化、地域協働サポート部署の強化）
- 十八年度実施Ⅱ健康福祉課介護予防係（仮称）の新設
- ②審議会や委員会等の整理統合

③校区公民館制度の導入、行政区の再編・見直しの検討

3 定員管理

《具体的な取組》

- ①職員の定数適正化
平成二十六年度を目標年度として適正職員数を百五十人（現在百九十六人）に設定（四十六人削減）
- ②人事評価制度の確立
人事院は勤務実績の給与への反映を勧告しており、適正な勤務評定制度の確立を図り、それに基づく昇級及び昇格の実施
- ③臨時職員の適正配置
平成十八年度から事務補助者（筆耕）数を五十パーセント削減。資格・免許等の必要な職種については早急な削減はできないので、平成十七年度中に全員をいったん解雇し、新たな雇用条件で再募集・再雇用を実施

4 財政運営の健全化

●財政改革プログラム

- ①歳入の確保（内部努力による収入確保・受益者負担の適正化・地方債発行の抑制・新たな歳入確保の検討）
- ②歳出の抑制（内部努力による経費の削減、補助費・扶助費・

事務事業の見直し、投資的経費の上限設定、民間活力の導入推進、公債費の縮減・平準化）

③推進体制及び住民への説明

●補助金適正化

《具体的な取組》

前年度三割カット未実施の補助団体への補助金を平成十八年度に三割削減します。

平成十八年度中に「補助金等適正化検討委員会」で補助の必要性、適合性、関係団体の活動状況等の調査・調整を含め、すべての補助金を対象に適正支出のための検討を行い、平成十九年度から実施します。

●報酬・給与等の適正化

《具体的な取組》

- ①特別職給与等の見直し
▽町長・助役・収入役・教育長
平成十八年度から給料・期末手当を十パーセント削減（収入役は平成十年十二月から不在）
- ▽議会議員
平成十八年度から報酬・期末手当を十パーセント削減、平成十九年五月（時期改選）時に定数六人削減
- ▽その他委員
平成十八年度から月額報酬の概ね十パーセント削減、平成十八年度から月額報酬額は定額引下げ
- ②職員給与の見直し

地域給・給与制度の見直しを

主な内容とした平成十七年八月の人事院勧告に基づく俸給表の全体水準を平均四・八パーセント引き下げた新俸給表に準じた削減の実施

- ③職員手当等の見直し
・管理職手当の支給額二十パーセント削減・保育所調整給の廃止
・特殊勤務手当の全廃
・適正な「勤務評定制度」の確立とそれに基づく昇級及び昇格の実施

5 効率的な行政運営

●規制緩和の推進と住民サービスの向上

《具体的な取組》

- ①実効性のある総合窓口の検討
- ②各種申請書等で押印の必要性がないものは原則廃止
- ③インターネットによる各種申請書等の出力
- ④一部窓口時間の延長の検討

●民間委託等の推進

《具体的な取組》

- ▽民間委託・業務委託等を検討する施設や事業
町立学校給食センター、加治木保育所、小山田保育所、加治木幼稚園、錦江幼稚園、スクールバス運行事業、公用車運転業務、学校用務員業務

務、学校用務員業務
●指定管理者制度の導入

《具体的な取組》

- ①平成十八年度から指定管理者制度を導入する施設
▽龍門滝温泉、町特産品売場（ふれあい物産館）、福祉センター、ふれあいセンター、さえずりの森、加治木龍門陶芸・健康の里（陶夢ランド）、文化会館（加音ホール）
- ②平成十九年度以降指定管理者制度の導入を検討する施設
▽加治木町幸和寮、加治木保育所、小山田保育所、生活改善センター、農産物加工センター、町立図書館、町立郷土館、樟鳩十文学記念館、町営運動場、町営体育館

●PFI手法の適切な活用

《具体的な取組》

- 財政状況により庁舎建設を導入の対象として検討

●地方公営企業の経営健全化

《具体的な取組》

- ①事務事業の再編・整理・廃止・統合の計画
- ②民間委託等の推進
- ③職員の定員適正化計画の策定
- ④財政計画の策定
- ⑤経営健全化計画の公表
- 土地開発公社の経営健全化
須崎地区公共用地については町が三十年償還による債務負担

行為を設定し、毎年約八千万円で買い取っていますが、未収金の状況があります。また、鹿児島県市町村土地開発公社加治木町支社の保有する大きな土地はなくなりました。

《具体的な取組》

①未収金の解消

●地域協働の推進

《具体的な取組》

- ①住民、自治会、住民団体及びNPOとの協働によるまちづくりの推進
- ②地域住民との意見交換会
- ③支援体制とシステム構築の研究

●情報公開の推進

《具体的な取組》

- ①町政報告・議会報告の積極的公開
- ②パブリックコメントの制度化・公聴制度の導入
- ③定期的な住民説明会の開催
- ④広報紙（広報かじき・お知らせ版等）の充実
- ⑤ホームページの活用・充実

●行政の情報化の推進

《具体的な取組》

- ①コンピュータ・ネットワークを活用した各種申請書等の出力
- ②庁舎内ネットワークシステムの整備
- ③ネットワークセキュリティ対策の確保

●人材育成の推進

《具体的な取組》

- ①職員資質の向上のため、次の項目について取り組みます。
- ア 新たな人事管理・研修システムの導入と人材育成・能力開発に資するプログラムの構築
- イ 男女共同参画の視点から女性職員の管理職・指導的役割への積極的登用
- ウ 専門的な職員の育成と定期的な人事異動の両立
- ②住民参加型のまちづくりの推進のため以下の事業に取り組みます。
- ア 加治木町人材バンク登録制度の設立
- イ 人材育成のための活動支援
- ウ 出前講座の実施

6 議会のあり方

《具体的な取組》

- ①定員の削減 二十人から十四人へ（次期改選時から）
- ②報酬・期末手当を十パーセント削減

用語説明

●NPO (Non-Profit-Organization) 〓 営利団体や行政に対して、営利を目的としない非営利の事業を行う民間団体の総称

特徴①組織性②民間性③利益の不配分④自律性⑤自発性

●行政評価 〓 政策、施策、事業について、事前、実施中、又は事後に、一定の基準や指標をもって、妥当性や達成度及び成果を判定すること。評価の結果については公表することも重要である。

●債務負担行為 〓 将来的な財政支出の約束として、予算に内容を定めておくもの。リース契約等がこれに当たる。歳入・歳出と共に予算の一部を構成する。

●指定管理者制度 〓 地方公共団体などが所有する公の施設の管理について、営利企業のほか社会福祉法人などの公益法人やNPO法人、自治会、町内会法人及び法人格をもたない団体でも管理者となれる制度。

●セキュリティ 〓 コンピュータやネットワークのシステムの安全性保持や、利用者の機密

保護

●土地開発公社 〓 公有地の拡大の推進による法律により設立された特別法人。①公有地取得事業②公共施設整備事業③工業団地、流通業務団地等の土地の取得・造成及び分譲④地方公共団体の委託による土地の取得のあつせん・調査・測量等の業務を行う。

●扶助費 〓 地方公共団体が法令等（生活保護法、児童福祉法、老人福祉法等）に基づき、受給者等に対しその生計費を維持するために支出する経費をいう。

●PFI (Private Finance Initiative) 〓 公共施設等の設計、建設、維持管理や運営に、民間の資金、経営能力や技術能力を活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法をいう。

●パブリックコメント 〓 行政機関などの意思決定過程において広く住民に素案を公表し、それに対して出された意見・情報を考慮して意思決定を行う制度。



新行政改革大綱の住民説明会

消防出初式

町内を堂々とパレード

新春恒例の加治木町消防出初式が一月五日、役場グラウンドで開催されました。

加治木中学校の吹奏楽部を先頭に、町内六分団の消防団員、高井田保育園と川野保育所の幼年消防クラブの園児など、二百人余りと消防車両が無火災と無災害を呼びかけ、国道や蒲生田通りなどをパレードしました。

式典では、消防ポンプ操法や放水演習が行なわれ、新春の青空に向かって美しい水のアーチが大きな弧を描いていました。



日本消防協会会長表彰を受ける宇都和義さん



幼年消防クラブの規律訓練



ポンプ操法を行う団員たち

表彰者

★日本消防協会会長表彰

○勤続章（30年）

中央分団分団長 宇都 和義

★鹿児島県消防協会総裁表彰

○功績章

西別府分団副分団長

上村 文男

西別府分団分団長 榑木 和幸

西別府分団分団員 堂森 忠夫

○精績章

中野分団分団長 緒方 清隆

中野分団分団員 古川 年幸

辺川分団分団長 中野 孝志

辺川分団分団員 大宮路和也

中央分団分団員 西 正一

○勤続章（30年）

中央分団分団長 宇都 和義

○勤続章（20年）

西別府分団副分団長

上村 文男

西別府分団分団長 榑木 和幸

西別府分団分団員 堂森 忠夫

★鹿児島県知事表彰

○勤続章（10年）

中野分団分団員 常盤 幸一

錦江分団分団員 服部 良市

★鹿児島県消防協会

始良伊佐支部長表彰

○勤続章（15年）

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

錦江分団分団長 神宮 洋一

錦江分団分団員 芝元 茂

辺川分団分団長 小宮路 忍

辺川分団分団員 向江 求

無火災表彰

（出初式から1年間以上）

中野分団（連続18年間）

錦江分団（連続2年間）

中央分団（連続1年間）

西別府分団（連続1年間）

辺川分団（連続1年間）

感謝状贈呈

（退団者15年以上）

元辺川分団分団長 岩元 道男

元西別府分団分団長 中山 正行

元小山田分団分団長 犬童 良和

元中野分団分団長 山下 宏

○勤続章（30年）

錦江分団副分団長 戎 孝

○勤続章（20年）

錦江分団分団長 川野 一豊

錦江分団分団員 川畑 實

○勤続章（10年）

○消防後援会連合会長表彰

元辺川分団分団長 岩元 道男

○勤続章（15年）

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏

中央分団分団員 山口 敏郎

中央分団分団長 神宮 洋一

中央分団分団員 芝元 茂

中央分団分団長 小宮路 忍

中央分団分団員 向江 求

中央分団分団長 岩元 道男

中央分団分団員 中山 正行

中央分団分団長 犬童 良和

中央分団分団員 山下 宏

中央分団分団長 戎 孝

中央分団分団員 川野 一豊

中央分団分団長 川畑 實

中央分団分団員 岩元 道男

中央分団分団長 大沢 利宣

中央分団分団員 福岡 節夫

中央分団分団長 坂元 幸宏



祝 成人



木下 円さん

二十歳の主張を述べた



川畑紀彦さん

町成人式が一月八日、加音ホールで行われ、晴れ着やスーツに身を包んだ新成人二百六十三人が出席しました（対象者は三百三十人）。

川野町長は新成人に対し「夢を持ち、自ら進んで経験や体験を重ね、自分の目標に向かって邁進してください。」とお祝いの言葉を贈りました。また、新成人を代表して木下円さんと川畑紀彦さんが「自立への道を歩んでいきたい。」「親への感謝の気持ちを忘れず頑張りたい。」など二十歳の主張を述べました。

式典終了後も、久しぶりに再会した旧友たちはあちこちで輪になり、尽きない思い出話に花を咲かせていました。



帽子を贈る神田敏紀会長（右）

加治木ロータリークラブの神田敏紀会長が十二月二十六日、町長室を訪れ、安全パトロール用の帽子百個を川野町長へ手渡しました。

これは子どもたちが犠牲となる事件や事故が多発している昨今、地域の方々が通学路等のパトロールを行う際に目立つ帽子をかぶってもらおうと寄贈されたもので、遠くからでもはつきりと分かる黄の蛍光色。

川野町長は「児童・生徒の登下校中の事件が相次ぎ、危険防止策を考えなければと思っていた矢先のプレゼント。大いに活用し、地域ぐるみで安全対策に取り組みたい。」と御礼を述べました。

子どもの安全を願って 帽子百個を寄贈

長年続く河川美化清掃

吉原自治会が県知事表彰

吉原自治会は長年に渡り、地域をあげて日木山川堤防の草払いや清掃活動に取り組んできましたが、これまでの河川愛護活動の功績が認められ、一月十八日、福元幸一加治木土木事務所長から佐多嘉継自治会長へ県知事からの表彰状が贈られました。

「清掃は七月と十二月の年二回。町民の散歩コースにもなっており、いつも百六十人くらいが美化作業に気持ちよく参加してくれます。」と佐多自治会長。福元所長は「自然環境や生活環境を守るためにも河川愛護は重要。地域の方ができる範囲で美化活動に取り組んでいただけると大変助かります。」と感謝の言葉を述べていました。



表彰状を手にする佐多嘉継自治会長（中央）



元気にハマを追いかけてました

懐かしい正月遊びに夢中 元気に「破魔投げ」を楽しむ

新春恒例の破魔投げ大会（町老人クラブ連合会主催）が一月十五日、役場グラウンドで行われ、自治会や町議会などから四チームが参加。昔ながらの正月遊びを楽しみました。

破魔投げは一チーム五人編成で、対戦チーム同士が互いにコート内で向き合い、樫の木を輪切りにした直径六センチ、厚さ二センチほどの「ハマ」を「ポット」と呼ばれるスティックで打ち合い、自陣でハマが止まって倒れると負け。

スティックが空振りすると「はらしもた」、ハマが遠くに転がると「まだ生きつちよっどー」などと元気な声が飛び交い、昔の青年たちは時を忘れ、夢中になっていました。

全国読書感想文コンクール

椋鳩十文学記念館賞贈呈式

椋鳩十文学記念館賞贈呈式が一月二十一日、加音ホールで行われました。コンクールには全国二十二都府県の小・中学校から五百五十四点の応募があり、その中から百一点が入賞作品に選ばれました。

川野町長が「椋文学は今も多くの人に感動を与えています。これからも多くの本を読み、大人になっても子どもたちに本を読み聞かせて欲しい。」と挨拶しました。式では入賞者全員に賞状が贈られ、最優秀賞を受賞した中村麻衣さんと大矢格くんが感想文の朗読を行いました。

【入賞者】

▼最優秀賞

中村麻衣（山口県周防大島町立明新小四年）

大矢格（山口県高水高等学校付属中三年）

【加治木町内の入賞者】

▼優秀賞

岩澤 夏海（加治木中二年）

▼特選

松崎 愛己（加治木中二年）

山下 董（桧城小一年）

▼入選

川原 真依（加治木小一年）

大田 蒼馬（錦江小一年）

大六野紗希（桧城小二年）

▼学校賞

桧城小学校
加治木中学校



かじき情報局



INFORMATION

募集

パートを募集 財宝グループ

誘致企業として町と立地協定を締結している財宝グループが業務拡張のためパートを募集しています。

○業務内容 電話案内業務（簡単な商品案内）

○年齢 25歳～50歳

○勤務地 加治木町諏訪町

○募集人員 30名

○勤務時間

・午前10時～午後4時

・午後5時又は6時～午後9時

○給与

時給650円～2000円

※研修期間は700円

○待遇

賞与11年2回 各種保険完備

○その他 時間、休日等は相談に応じます。

○応募方法 電話連絡後、履歴書（写真貼付）を直接持参してください。

▽問い合わせ先

財宝グループ始良事業所

TEL (62) 7777

お知らせ

臨時休園します 霧島アートの森

鹿児島県霧島アートの森は、収蔵作品等の燻蒸処理のため、平成18年2月20日（月）から27日（月）までの8日間、臨時休園します。

▽問い合わせ先

霧島アートの森

TEL 0995 (74) 5945

確定申告は 正しくお早めに

確定申告の時期が近づいてきました。平成17年分の所得税の確定申告期間は、平成18年2月16日（木）から平成18年3月15日（水）までとなっています。

所得税は、納税者自身が所得金額や税額を正しく計算して納税する申告納税制度をとっていますので、所得金額や税額を正しく計算し、申告と納税は期限内にお済ませください。確定申告書の提出は、郵送等でも構いません。

なお、国税庁のホームページ

(<http://www.nta.go.jp>) の確定申告書等作成コーナーで簡単に申告書等の作成ができますので、ぜひ御利用ください。

▽問い合わせ先

加治木税務署

TEL (62) 2163

不動産登記 オンライン申請

平成18年2月27日（月）から鹿児島県地方税務局（本局）不動産登記部門では、不動産登記の申請をインターネットを利用して行うことができます。なお、従来の「登記済証（権利証）」は廃止され、「登記識別情報の通知」及び「登記完了証」が交付されることとなります。現在、登記名義人がお持ちの登記済証（権利証）は、書面による申請をする場合に添付書面として利用することができます。

▽問い合わせ先

鹿児島地方税務局

TEL 099 (259) 0682

自宅がキャンパス「放送大学」

放送大学はテレビ・ラジオを利用して授業を行う正規の大学です。

★視聴方法・スカパーフェクTV（テレビ205ch・ラジオ500ch）

平成18年度第1学期学部生・大学院修士科目生学生募集

【募集期間】2月28日（火）

【教養学部】学生の種類 ●全科履修生（4年以上在学し、学士の学位の取得を目指す学生）

●選科履修生（1年間在学し、希望する科目を履修する学生）

●科目履修生（6か月在学し、希望する科目を履修する学生）

（特長）○入学試験はありません。

○15歳以上であれば誰でも入学できます。

○約300科目の中から好きな科目を学べます。

【大学院】学生の種類 ●修士科目生（6か月在学し、希望する科目を履修する学生）

●修士選科生（1年間在学し、希望する科目を履修する学生）

（特長）○18歳以上であれば誰でも入学できます。

○約60科目の中から好きな科目を学べます。

問い合わせ先 放送大学鹿児島学習センター TEL099-239-3811

<http://www.u-air.ac.jp>

お知らせ

募集

イベント

講座

春を呼ぶ初市



■蒲生田通りと端山通りを中心に約200店
だるま、衣料品、履物、食料品、陶器、金物、
竹製品、草花、苗木、盆栽、加治木町特産品、
フリーマーケット商品等

午前8時～午後6時

3月4日(土)・5日(日)

催し物

- ガーデニング教室 かもだんばんこ
「春まき草花の栽培」
4日・5日 午前10時～午後4時
- 川野子ども太鼓 川島クリニック駐車場
4日 午後1時30分
- 献血車がやってきます タイヨー駐車場前
4日 午前9時～正午と午後1時～4時
- 初市なべ(さつま汁) 相互信用金庫前
- うどん・そばコーナー 端山通り

毎年3月2日・3日に行われていた初市は、今年から3月の第1土曜日とその翌日に開催されます。

問い合わせ先 加治木町商工会 TEL63-2295

第10回 ロータリー加音フェスタ

3/10(金) 14:00～15:30

10周年記念講演「うっかり八兵衛の元気になる話」

- 講師：高橋元太郎 ● 入場料：無料
- 申込方法：往復はがきにてお申込みください。
返信用はがきには御自分の住所・氏名を必ず記入してください。
- 申込締切：2月25日(土) 必着
- 申込先：〒899-5241 加治木町木田5348-185
加音ホール「加音フェスタ事務局」行



3/11(土)

日舞・3B体操・ダンス
太鼓・カラオケ・太極拳
三味線

入場料(関所手形)

- 一人 300円(4歳以上)
 - 家族 800円(大人1人・子ども3人)
- 3月11日～12日、何回でも入場できます。



3/12(日)

オーケストラ・コーラス

入場券販売所

加音ホール・加治木ロータリークラブ
メガネのササヤマ・性応寺・各実行委員

問い合わせ先 加治木ロータリークラブ TEL62-9188

資源物の分別収集に御協力を

平成16年4月に資源物の分別収集がスタートしてまもなく2年が経過しようとしています。この間、町民の皆様方の御協力により収集量は概ね順調に推移しています。平成16・17年度を14品目全体で比較すると、17年度は前年度の約72%（12月現在）となっています。資源物の収集量が減少すると可燃ごみ・不燃ごみが増加し、分別収集の目的であるごみの減量化にはつながりません。可燃ごみ・不燃ごみを出す際には、今一度、資源物が入っていないかをチェックしましょう。

平成16・17年度 資源物収集実績（4月～12月）

（単位：kg）

種類	かん類		びん類			プラスチック類			紙類						合計
品目 年度	アルミ	スチール	茶色	透明	その他の色	ペットボトル	白色トレイ	その他プラ	新聞・チラシ	雑誌	段ボール	菓子箱類	紙パック	その他紙類	
16年度	30,342	37,570	62,033	46,148	15,013	40,510	8,785	96,910	331,280	193,550	86,560	13,325	2,764	21,374	986,164
17年度	24,235	25,647	49,478	36,963	10,274	32,970	7,400	69,580	221,810	106,560	67,850	21,130	2,150	30,870	706,917
対前年比 (%)	0.80	0.68	0.80	0.80	0.68	0.81	0.84	0.72	0.67	0.55	0.78	1.59	0.78	1.44	0.72

分別収集には、どのくらいの経費がかかるか御存じですか。

平成17年度見込みで、資源物売払金等の収入は約871万2千円、資源物ステーションからの収集運搬業務・中間処理業務（圧縮・梱包）等の支出は約4,184万3千円となっています。収入・支出の差額3,313万1千円には一般財源が充てられます。各家庭で、かん類・びん類・プラスチック類・紙類の分別がルールどおりに確実に行われるかどうかで、有価物等の収入、資源物再生・中間処理業務委託料、不燃ごみ等中間処理業務委託料等が変化します。

平成16・17年度 資源物収集に係る収支

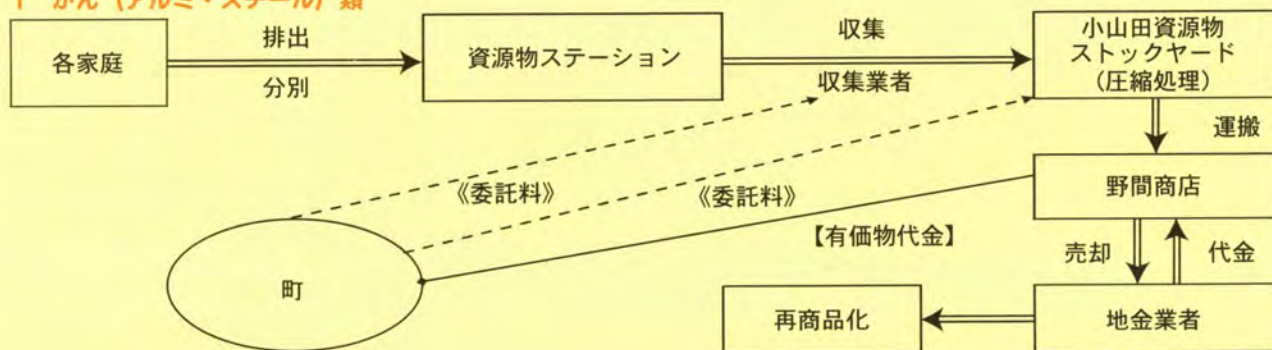
（単位：千円）

		件 名	16年度実績	17年度見込
収入	有価物 売払金等	びん類（1升びん等）売払金	50	131
		白色トレイ売払金	44	81
		ペットボトル売払金	225	201
		紙類売払金	3,863	3,862
		アルミ・スチールかん売払金	3,249	4,437
		収 入 合 計	7,431	8,712
支出	委託料等	塵芥収集（資源物）業務委託料	21,900	27,444
		びん類再商品化委託料	86	65
		かん・びん類積込業務委託料	252	252
		その他プラスチック類再生処理業務委託料	7,243	5,554
		プラスチック類中間処理業務委託料	9,889	6,029
		資源物ステーション管理手当	1,910	1,880
		役場資源物ステーション管理委託料	283	619
		支 出 合 計	41,563	41,843

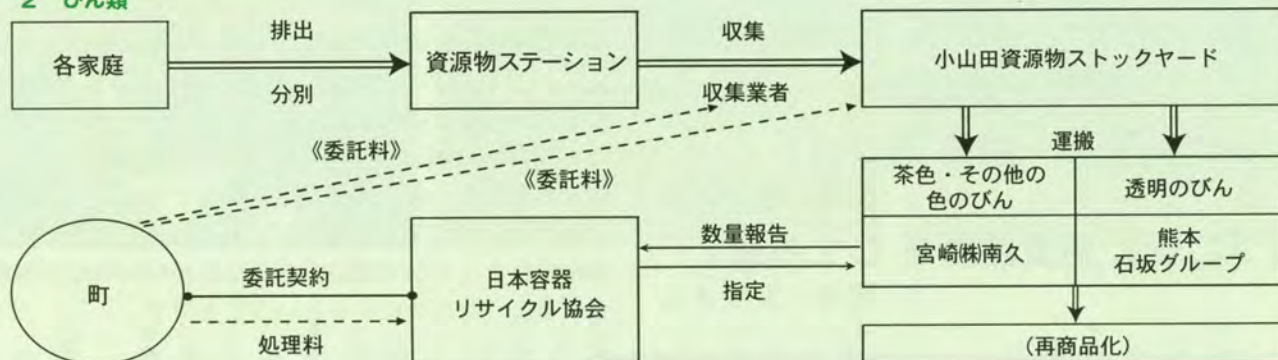
収集された資源物がどのような体制で処理、再商品化されているか御存じですか。それぞれ資源物の種類によって異なりますので、次のページの資源物収集の流れを参照してください。

平成17年度 資源物分別収集フロー・チャート

1 かん（アルミ・スチール）類

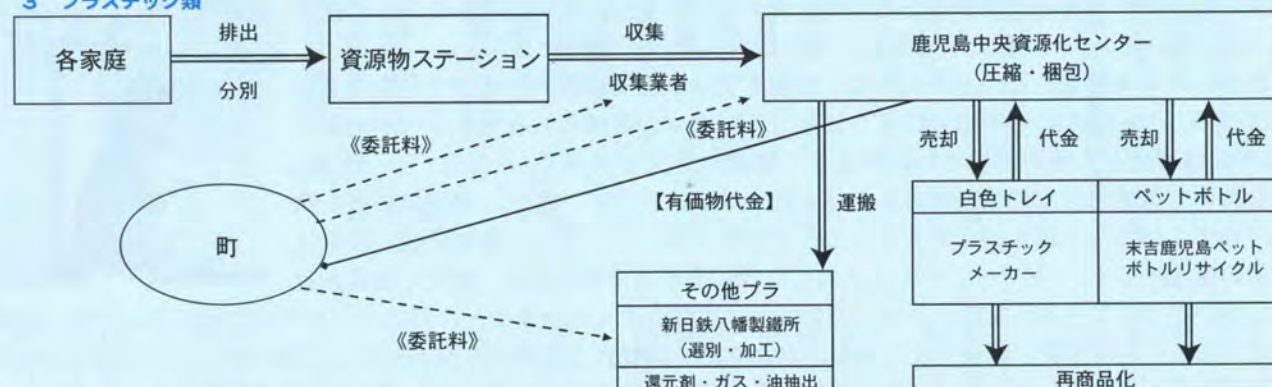


2 びん類



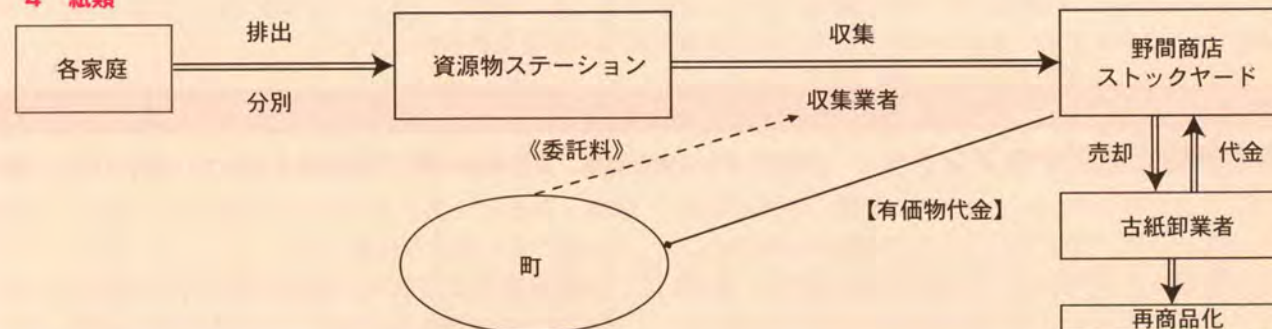
※ 日本容器リサイクル協会と契約すると、資源物処理料が安くなります。

3 プラスチック類



※ その他プラスチックは、18年度から日本容器リサイクル協会と契約して処理を行います。処理料は、町独自で処理する場合の5%になります。

4 紙類



このように、分別収集は多額の費用と多くの人の協力で成り立っており、ごみの減量化や再商品化に最も有効な手段です。私たちが快適で潤いのある生活環境を作り、それを長期的に維持していくためには、今までの「大量生産、大量消費、大量廃棄」の経済活動や生活様式を見つめ直し、環境負荷の少ない社会を形成していく必要があります。分別収集の推進を図るため、今一度、家庭で分別収集について話し合ってみましょう。これまで以上の御協力をお願いいたします。

ジェンダー(社会的文化的に作られた性差)からの解放は男女共通のテーマです。

シリーズ No.47

男女共同参画



加治木中学校 ～校内人権週間～ 男女共同参画の取組！

1年生の優秀作品

「手伝うよ その一言の 温かさ」

本坊 綾乃さん

「気づこうよ 男女差別を してる君」

榎谷 実咲さん

加治木中学校では「校内人権週間」で男女の役割分担について、簡単なアンケートでの学習や男女共同参画の川柳・一行詩に取り組みました。

「男女共同参画を身近なところに」をテーマに各クラスで優秀作品を選び、生徒会本部で学年優秀作品を集約して12月16日の給食時間に放送しました。(2・3年生の優秀作品は次号に掲載)

男女共同参画は、すべての人がその人権を尊重され、個性や能力を十分に発揮でき、性別でなく、どんな場でも自分の意思で対等な人として参画し、責任と喜びを分かち合うことができる、自分らしく一人ひとりが尊重されるような社会にすることです。

《農業の場の男女共同参画 その2》

『農業の場における男女共同参画を考える』をテーマにした、たもつゆかりさんの講座が1月17日、福祉センターで開かれました。昨年12月に続いて2回目。

「これからの地域農業をどう進めるかは、加治木では小山田地区のむらづくりをモデルにすればいい。みんながめざすむらづくりになっています。事例を共有することが大事です。21世紀は環境と人権の世紀といわれます。農業の活力が大事で、「自然」と「人権」が分断しないで持続可能な地域振興のシナリオをつくることです。また、農業のことを農業だけで考えるのではなく統合的に考えること。そのキーは「人」です。地域農業の振興はむら全体の活性化です。「グリーンツーリズム」について本気で取り組み、歴史と地域振興とをどうプログラムできるかです。行政への依存だけではうまくいきません。町の人々が主体的に動くことです。農業で経済を立てることも重要で、歴史や文化と組み合わせた、消費者と生産者の顔が見える交流の中で、安心安全な野菜等の流通までを考えるといいでしょう。光の当て方を変えて価値を見直しましょう。これからの地域のあり方は、人とのつながりの力(相互扶助)です。」と講演されました。

また、2/21と3/21に開催予定の久永繁夫さんの「高齢者とともに地域でいきる」の講座では、高齢者虐待と男女共同参画について考えます。参加を希望される方は、男女共同参画係まで御連絡ください。



「あなたの持ち場で子どもに関してどのような対応ができますか。」

一 児童虐待防止期間中のアンケート (日頃子どもの健全育成、児童福祉に関する諸活動をされている方々から) No3

- 「来所してきた時の声かけでの表情、着替え時での身体チェックなどから、子ども一人一人の健康(心身共に)、生活の安定を図る。」(40代女性)に代表されるように、就学前の子どもたちに対しての専門的な関わりに加え、身体チェックや視診などが重視されている報告が多数ありました。
- 「子どもや親にすすんで声をかける。また、明るいあいさつを心がける。地域行事等への積極的な参加を呼びかける」(60代男性)に代表されるように、見守り・

観察・声かけ・あいさつなどを実施しているという回答も非常に多く寄せられました。

関係者等による温かい地域の協力や見守りとともに、「要保護児童対策地域協議会」による地域での親・子どもを支援する機能が両輪となって児童虐待防止を推進することが、安全で住みやすい町になることを確認しました。

御協力くださったみなさん、どうもありがとうございました。

教育委員会だより



豊かな人間性・社会性を育む ～豊かな体験活動推進事業～

子どもたちが豊かな人間性や社会性などを育むために学校教育においても様々な体験活動を充実させることが重要です。町内の各学校・園では、その趣旨に沿う多くの活動が展開され、体験を通して学ぶ営みが実践されているところです。

加治木町教育委員会では、本年度、文部科学省の指定を受け、加治木小学校・加治木中学校を「推進校」として設定し、地域間交流の体験活動を計画し、子どもたちに豊かな体験活動を積極的に進めてきました。

その状況を1月16日、熊本県で開催された九州ブロックの研究大会で加治木中学校が鹿児島県代表としてその活動内容を発表し、多くの参加者から高い評価を得ました。加治木中学校では郷土芸能の伝承活動を進めていて、加治木太鼓踊りや天吹・自顕流立木打ちなどの郷土芸能や文化を地域の方々とともに伝承しています。また、さつまいもの植付け・収穫等の農業体験も実施しています。吹奏楽などの部活動、職場体験活動などさまざまな分野での地域との関わりは、子どもたちにとって得がたい生き抜く栄養となることでしょう。



(事例発表する加治木中学校児玉教諭)

子どもの居場所づくりをめざして…… 各地域子ども教室1年の歩み……



「地域の子どもたちは地域で育てる」を合言葉に昨年度から始まったのが「地域子ども教室」でした。その活動の様子についてお知らせします。

放課後、子ども教室の拠点に集まった子どもたちは月々の計画に沿って活動の準備をし、指導員の支援のもと、2時間余りの活動が開始されます。

12月、加治木小地域子ども教室ではクリスマスの飾りやリース作りをしました。柁城小地域子ども教室ではパソコンと書道を習っていました。竜門小地域子ども教室では、詩吟・将棋を習い、年末にはしめ縄作りを体験しました。このときのしめ縄が役場玄関先に飾られました。

この地域子ども教室は、学校や家庭で体験できない様々なことを、地域の大人から学ぶという得がたいもので、子どもたちにとって安らぎ感のある居場所となっています。

子どもさんのことについてお悩みの方は、次のところにまず電話で御相談ください。

○いじめホットライン 099-294-2200 (月～金 8:30～17:00 土 8:30～12:00) TEL0120-783-574

○始良教育事務所 63-3111 (月～金)

○加治木町教育委員会 62-2111 (内線341)

○加治木中 63-1111

○柁城小 63-2552

○錦江小 62-2359

○竜門小 63-3446

○永原小 62-2816

○加治木小 62-3156

○加治木幼 62-2502

○錦江幼 63-2038

(教育相談員・スクールカウンセラー等は、学校を通して相談に応じています。)

竜門旬会

口上をのべて三歳お年玉

落葉焚く人と損得なき話

ここ掘れの犬現れよ夢はじめ

畦道は母への近道雪もよひ

蔵王岳旗も新たに淑気満つ

寒雀妊婦大股にて歩く

婚の儀の日取りも決まり初電話

みどり児の条件反射日脚伸ぶ

初暦孫の慶事に花丸を

竹林に咲く蘭あまた金山史

またこの階のぼる初詣

冬風が好きとて母娘犬引きて

見栄え良き安きマンション肌寒し

雪ましろ富士に劣らぬ桜島

水茎の余白の流れ去年今年

久闊の声お互ひに年の暮

東京のスモッグの上に白き富士

新市誕生高千穂太郎雪羽織り

春田真未子

柳田 稔

稻恒 寧夫

園田 千秋

酒匂 君江

藤原 壽子

神村 洋子

田代 俊泉

岩田美知江

脇本 星浪

藤崎 文庫

犬童 利春

川畑 克己

松田 藤人

郡山マサ子

竹山 洋子

中村 勉

川崎 黒兎

郷土館コーナー

『新納仲之進日記』

英医ウィリスの診察は、

一日六拾人の混雑具合で順番待ちだった

通

称仲之進。字は時房。時
行の次男、長男は時成。

文政三年（明治十五年）六十四
才歿。東良助、安井息軒に師事。

「土庶ノ別」に基づいた日本
の社会・制度・文化を維持する

ことが主で、必要に応じて西洋
の文化（軍事・工業等）を取り

入れるという考え方をもち、西
南戦争の必然性を感じられる。

蘭学を長崎で学ぶ。明治七年、
東京内務省に葛城彦一の薦めで

二年ほど勤務するが、子息時敏
の若年の死去により帰郷する。

明治十年加治木戸長、明治十四
年加治木中学校長（創業初期）。

新納時房の書いた日記は十四
冊。明治三年正月二十七日の日

記は興味深い。「昨日、曾木源
次郎足痛に付き英医の療治に預

かるべき為に出府。今晚、九時
過ぎより源次郎、平二、病院へ

差越し門前に夜を明し順番の札
を取り帰り朝飯仕廻四人同道、

再び病院へ差越し診察の上葉申
請来候。但し、一日に六拾人を



父。西郷隆盛の援助も受け明治
三年、現在の南州神社の近くに
医学学校（赤倉病院）を設け、西
南戦争のため明治十年二月に鹿
児島を去るまでの七年間在住。
患者は一万五千人に及ぶ。加治
木の開業医、上村泉三の師でも
あった。（上園正人論文参照）



鈴がけ馬おどり

2月19日(日)

鹿児島神宮初午祭



香典返し代わりに御寄附を
いただきました。厚く御礼申し
上げますとともに故人の御冥福
をお祈りいたします。

() は故人

◆社会福祉協議会へ◆

岩原西三区 松木 忠明 (母 富 86)

西反土後 飯屋蘭瑞子 (夫 昭 63)

吉原 榑木 一三 (妻 千鶴子 76)

隈原上 森 涼子 (母 榎谷ハナ子 88)

中塩入 山崎新一郎 (母 ミツエ 101)

岩原南 古谷シヅ子 (夫 嘉男 80)

天神 武田 健次 (母 スメ 86)

▼1月15日までの御寄附を掲載しました。



◆お詫びと訂正◆

広報かじき1月号の掲載内容に誤りがありました。訂正して深くお詫び申し上げます。

●5ページ二段目十行目 (誤) 毎週木曜日

(正) 毎月第一・第三木曜日



うぶ言

出生児 保護者 自治会

井上 和佳南 雄喜 加治木龍門

是枝 淳之介 忠彦 竹下

下大迫 悠輝 美紀 弥勒

大山 姫菜乃 孝 岩原南

有元 雅人 昭一 蔵王団地

齊藤 友香 洋一 田中

原口 偉武輝 武大 春日団地

岡元 太陽 武大 加治木龍門

▼1月15日までに住民台帳に記載された方を掲載しました。

2月・3月 医療機関在宅医表

都合により変更になる場合がありますので、必ず事前に御確認ください。

月 日	医療機関	所在	電 話	医療機関(小児科)	所在	電 話	医療機関(眼科)	所在	電 話
2月	11 (祝) 徳重クリニック	加治木	62-2672	かわの小児科	隼人	42-8866	いちち眼科	国分	47-3618
	12 (日) さんのう内科	加治木	63-3000	きたはらこどもクリニック	国分	64-0677	神村眼科	始良	64-5556
	19 (日) 浜崎クリニック	加治木	62-8588	こどもクリニック山崎	始良	65-1350	隼人福島眼科	隼人	64-2940
	26 (日) 川島クリニック	加治木	62-7200	富永クリニック	始良	65-7311	西眼科医院	加治木	62-2526
3月	5 (日) 四本信一皮膚科	加治木	63-9912	永山医院	隼人	42-0109	青雲病院眼科	始良	66-3080
	12 (日) とくだクリニック	溝辺	64-1717	希望ヶ丘病院	始良	65-3207	椎原眼科医院	隼人	43-1050
	19 (日) 西園耳鼻咽喉科	加治木	62-8787	国分生協病院	国分	45-4806	田中眼科医院	始良	65-3986
	21 (祝) おばた泌尿器・ひふ科	加治木	62-7100	朝日ヶ丘クリニック	始良	66-1122	渡辺眼科クリニック	国分	45-6888
	26 (日) 松本外科胃腸科	加治木	63-1911	いかりこどもクリニック	国分	48-5858	いちち眼科	国分	47-3618
診療時間		午前9時～午後5時		午前9時～午後5時		午前9時～午後1時			

2月は 国民健康保険税 (第6期) の納期です
介護保険料普通徴収 (第6期)

納期限 (2月28日) までに納めましょう。

納税は手軽で便利な口座振替で！手続は預金口座をお持ちの銀行や農協等で。

申込みから振替開始まで約1か月を要します。

問い合わせ先 税務課 TEL 62-2111 (内線102～104)



カメラでパチリ

こんなもの
あんなもの



こう見えても立派な人参と大根です
山下勝夫さんの菜園で採れました



錦海漁協が白浜沖（始良町）で育てた
大型のブリ3匹を若葉学園へプレゼント



加治木町手をつなぐ育成会のみなさんが役場に門松を贈りました

「暮らしのカレンダー」の 訂正 をお願いいたします。

各家庭へ配布してあります「暮らしのカレンダー」に誤りがありました。
深くお詫び申し上げますとともに、次のように訂正をお願いいたします。

訂正箇所……3月のページ

	(誤)	(正)
春分の日	3月20日(月)	3月21日(火)

御迷惑をおかけして申し訳ございません。

点線の部分を切り取り、カ
レンダーの訂正箇所に貼りつ
けてください。



キリトリ

20

春分の日

21



この広報紙は再生紙を使用しています。

※毎年3月に各世帯へ配付していた「暮らしの
カレンダー」は平成18年度から廃止し
ごみ収集日や行事予定等は、このように
毎月の広報紙に掲載いたします。

2月

February

日	月	火	水	木	金	土
12	13 可燃A 健康相談	14 可燃B 女性相談	15 不燃B びん・かんB 防火の日 サイレン吹鳴	16 可燃A 心配ごと相談 母子健康手帳交付	17 可燃B プラA 龍門滝温泉健康相談	18 青少年育成の日
19 初午祭（鹿児島神宮） 家庭の日	20 可燃A 健康相談	21 可燃B 女性相談	22 紙A 紙B 県下一周駅伝 加治木町通過	23 可燃A プラB 母子健康手帳交付	24 可燃B	25 小山田ふれあい朝市
26	27 可燃A 健康相談（栄養）	28 可燃B 女性相談			2月28日まで ●国民健康保険税第6期 ●介護保険料普通徴収第6期	

3月

March

日	月	火	水	木	金	土
3月の行事予定 ●春季全国火災予防運動（1日～7日） ●第1回町議会定例会 ●春季畜産共進会			1 サイレン吹鳴	2 可燃A 心配ごと相談 母子健康手帳交付	3 可燃B プラA	4 初市
5 初市	6 可燃A 健康相談（栄養）	7 可燃B 女性相談 龍門滝温泉健康相談	8 不燃A びん・かんA	9 可燃A プラB 母子健康手帳交付	10 可燃B	11 加治木とれたて市
12	13 可燃A 健康相談	14 可燃B 中学校卒業式 女性相談	15 不燃B びん・かんB 防火の日 サイレン吹鳴	16 可燃A 心配ごと相談 母子健康手帳交付	17 可燃B プラA 町立幼稚園卒園式	18 青少年育成の日
19 家庭の日	20 可燃A 健康相談（栄養）	21 可燃B 春分の日	22 紙A 紙B 龍門滝温泉健康相談	23 可燃A プラB 小学校卒業式 母子健康手帳交付	24 可燃B 幼・小・中学校修了式	25 保育所卒園式 小山田ふれあい朝市
26	27 可燃A 健康相談	28 可燃B 女性相談	29	30 可燃A 母子健康手帳交付	31 可燃B	

平成17年度 かじの木大学講座・女性学級 閉講式・記念講演

どなたでもお気軽にお越しください



伊牟田經久先生

加治木町では「学ぶよろこび 活かすよろこび 助け合うよろこび」のテーマのもとに、「かじの木大学講座」、「女性学級」を開講しています。

生活の楽しみや生きがいを求め、「心豊かな活力に満ちた」まちづくり推進の気風を高めるために、下記により「閉講式・記念講演会」を開催いたします。かじの木大学講座生・女性学級生の舞台発表や作品の展示発表もあります。

記念講演の講師は志學館大学・学長の伊牟田經久先生です。（左写真）

「ことばと人間関係」と題して、ことばのもつ力・よりよい人間関係を築いていくためのコミュニケーションのあり方等について御講演をいただきます。

町民の皆様の御参加をお待ちしています。

※かじの木大学講座・女性学級の皆さんは、全員御出席ください。

記

1 期 日 平成18年2月27日（月）

2 場 所 加音ホール（小ホール）

展示発表（第1～2会議室及びエントランスホール）

3 日 程

- | | | |
|-----|--------------|-------------|
| (1) | 受付 | 12:30～13:00 |
| (2) | 開会行事 | 13:00～13:20 |
| (3) | 修了証書授与 | 13:20～13:35 |
| (4) | かじの木大学講座紹介 | 13:35～13:55 |
| (5) | かじの木大学講座舞台発表 | 13:55～14:25 |
| (6) | 講座生お礼のことば | 14:25～14:30 |
| (7) | 記念講演 | 14:40～16:10 |

演題 「ことばと人間関係」

講師 志學館大学・学長 伊牟田經久先生

- | | | |
|-----|------|-------------|
| (8) | 閉会行事 | 16:10～16:20 |
|-----|------|-------------|